

A DEAN MESSAGE
学部長メッセージなぜ経済学を
学ぶのか

経済学部長 全 載旭

Chun ChaiWook
(チョン・ゼウク)
慶応義塾大学大学院経済学研
究科博士課程 博士(経済学)■専 門
開発経済学、アジア経済論、
中国経済論■担当科目
東アジア・中国経済論、
韓国経済論

経済学は役に立たない？

経済学をなぜ勉強する必要があるのか？あるいはそれを学んでどこに活用できるのか？我々の生活や社会的な成功に果たして役に立つのか？といった質問をたびたび学生から受けることがあります。ここで、その答えを述べてみたいと思います。

経済学とは、人間の物質的な欲求を充足させるため希少な資源をどのように活用すべきなのかということを探求する学問です。つまり、経済学は個人や社会がいろいろなる用途で使われる希少な資源を選択的に使用し、多様な商品やサービスを生産・交換・分配・消費する過程で起きる経済現象を研究対象としています。

経済学を学ぶ目的は二つあります。

一つは、現実の経済がどのように動いているのかを体系的に理解できる眼を養うことです。経済学の知識がなければ多様な経済現象と関連している因果関係を理解することはできません。その意味で経済問題を理解する能力は、社会生活における成功のための手段としてその価値が大きいと言えます。社会のどこでどんな仕事をして、この能力があるかどうかが大切になると言っても過言ではないと思います。

もう一つは、合理的選択の基本原則を理解することです。合理的な選択というのは、多くの選択可能性の中で自分に最も有利なものを選択することを意味します。経済的論理は合理的選択に至る道を知らせるガイダンスの役割をして

います。経済学を勉強している人がいつも合理的な意思決定ができるとは限りませんが、合理的な選択の基本原則を知っているということは、とても重要な意味を持っています。この基本原則を知らない人は、合理的な意思決定をしようとしてもそれができません。

経済理論の方法こそ学ぶ対象

一般的に、経済現象はとても複雑なので、それを直接分析しても存在している普遍的な規則性を導き出すことはできないことが多いのです。したがって、複雑な経済現象を単純化し、そこから普遍的な法則性を明らかにします。また、その法則性を利用して他の経済現象を説明したり、経済現象の様々な変化を予測したりします。これが経済理論の目的です。

経済理論の表現方法には三つのタイプがあります。「叙述的な方法」と「数理的な方法」と「幾何学的方法」です。一つ目の「叙述的な方法」は数式や図形を使わず文章で表現します。この方法は、文章を読んでその意味を把握することができるメリットがある反面、経済現象を説明する時、表現が長くなるというデメリットがあります。それを補完し、経済理論を数理的に表現するのが二つ目の「数理的な方法」です。最後の「幾何学的方法」は複数の変数間の関係を表やグラフで分かりやすく表現します。以上の三つの表現方法は相互補完的で、これらを適切に交えながら経済理論を説明することが多いです。

皆さんが経済学という学問を学ぶに当たって最も重要なのは、そうした経済学的な思考です。経済学のアイデアと論理的な展開方式は、現代生活のほとんどの部分に適用できます。経済学という学問自体は現実と離れている、あるいは我々の生活と関係ないように見えるかも知れませんが、皆さんは直接、あるいはすぐに感じることはできないかも知れませんが、経済学を学んだ人の頭の中には合理的に物事を解決しようとする思考が作られていくはずで、それは、経済学が徹底的に因果関係を重視する最も論理的な学問であるからです。経済学が社会科学の花であると言われるのも、ここにその理由があります。自分では分からないうちに、世の中で生きる重要な方法、自分のことを決める方法、代案を探す方法等を教えてくれるのが経済学、経済学的方法なのです。

経済学は、最初から最後まで論理の学問なので、暗記する必要はありません。経済学が比較的難しい学問であると認識されているのも、そのためかも知れません。論理的な学習なしでは経済現実を体系的に理解することはできません。経済学の論理を学んだ人は、その論理に基づいて将来どんなことが起きるかを予測できるようになります。

皆さんは将来どのような仕事をするのかまだ分からないでしょうが、その仕事は何であっても、学生時代に経済学を学んだことはとても良かったと思うに違いありません。